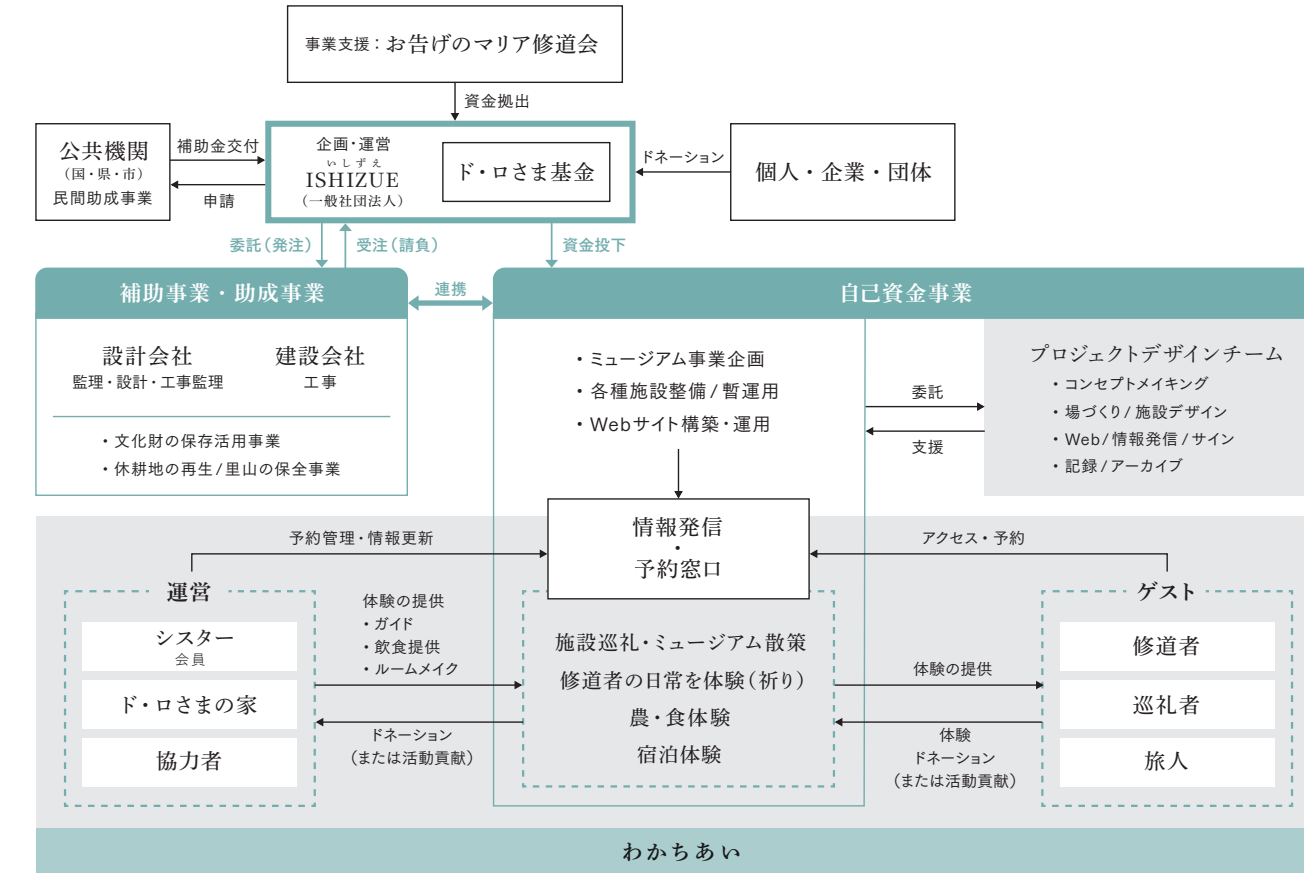




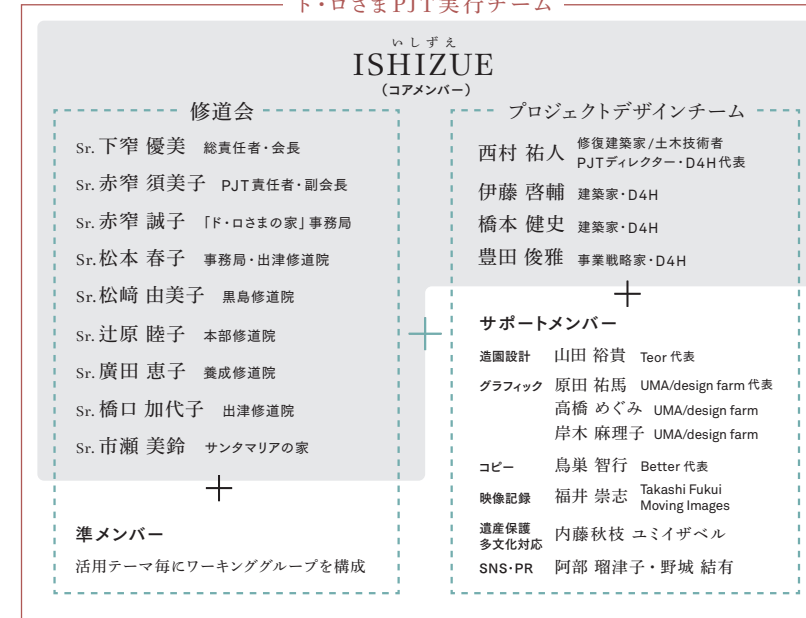
Team & Scheme  
事業スキーム



プロジェクトは大きく2つの事業で構成されています。ひとつは行政からの補助を受け実施する、文化財の保存活用を中心とした事業。もうひとつは、基金を含む自己資金により推進する事業です。この取り組みは地域コミュニティのありかたの実践でもあり、ゲストは寄付による金銭のやりとりだけではなく、活動による貢献で体験の提供を受けることができます。

プロジェクトの企画・運営は、お告げのマリア修道会を母体とする(一社)ISHIZUE(いしずえ)が担います。プロジェクトの推進にあたっては、シスターたちを各分野の専門家によるデザインチームがサポートしながら、来訪者を含む様々な人たちがプロジェクトに参加し、わかちあい、物語の継承者となる仕組みをつくります。

ド・ロさまPJT実行チーム



プロジェクトを応援してくださる方へ

プロジェクトを推進していくための「ド・ロさま基金」を創設し、プロジェクトの趣旨に賛同した個人・法人・団体からのドネーションを公募いたします。詳細についてはホームページの「ド・ロさま基金」の案内をご覧ください。



お問い合わせ

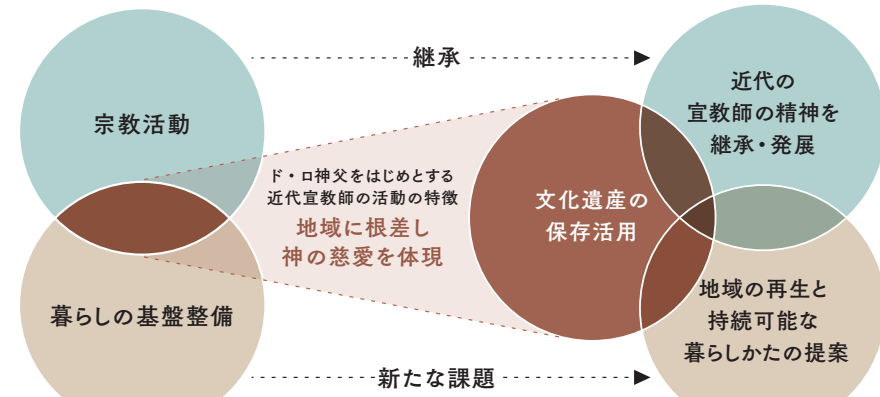
一般社団法人ISHIZUE  
ド・ロさまと歩くミュージアム プロジェクト事務局  
〒851-2322 長崎市 西出津町2554  
TEL 0959-31-4191  
E-mail info@fr-doro.jp  
https://fr-doro.jp



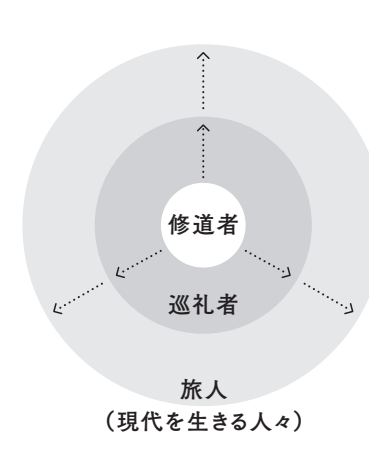
## 異国の地で神の慈愛を実践し続けた ド・ロ神父の物語をわかちあい、 未来へつなぐフィールド・ミュージアムをつくる。

これまでの価値観が大きく変化し、現代に生きる多くの人が  
ゆたかな暮らしのありかたを模索しています。  
そんななか出津で継承されてきたド・ロさまの精神や生活文化、  
共同体のありかたは、これからのゆたかさを示すものになるでしょう。  
競争するのではなく、共に耕す。占有するのではなく、わかちあう。  
ないものを望むのではなく、あるものを生かす。  
大切に受け継がれてきた、修道会の営みを耕しわかちあうことで、  
これからの時代を生きる人たちの糧となることを願います。

次代の修道会の  
新たな役割



修道会の「わかちあう」  
暮らしかたをおすすわけ



### マルク・マリー・ド・ロ神父 (ド・ロさま)

1840年にフランスのノルマンディー地方ヴォスローに  
貴族の次男として生まれる。1868年に来日。印刷技師  
として長崎や横浜で宣教活動に励んだのち、外海地区  
へ赴任。母国で身につけた建築・土木・医学・産業  
などの幅広い専門知識を活かし、多様な事業を自ら先  
導し外海の人々に「自立して生きる力」を授けた。出  
津教会・大野教会・救助院・マカロニ工場など設計し  
た建築は現在も外海の地に残る。神父は来日後、一  
度も母国へ帰ることなく、1914年に享年74歳で逝去。  
出津集落、野道の共同墓地に眠る。



左:ド・ロ神父肖像画 右:[SHITSU] 風景画/長崎市ド・ロ神父記念館収蔵(修道会寄託)

VISION

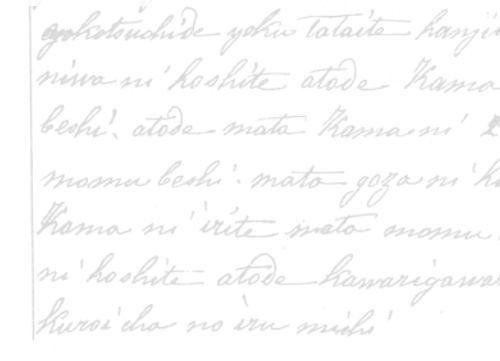
## 歩いて巡る。 歩みを振り返る。

「自分たちが暮らす環境、インフラ、住まい、着るもの、食べるものでは  
だけ自分たちの手で。」外海の人々にそう教え、自活の力を育んだド・ロ  
神父の精神は、持続可能な地域社会のあるべき姿を示しています。その  
精神は現代でも有効なものとなるでしょう。  
このミュージアムでは、ド・ロさまと村の人々が残した大切な歴史的遺産を  
歩いて巡るとともに、神父の精神を受け継ぐシスターたちの暮らしの一部を  
体験することができます。体験を通してド・ロさまの歩みを振り返り、その  
精神を感じることができるフィールドミュージアムを目指しています。

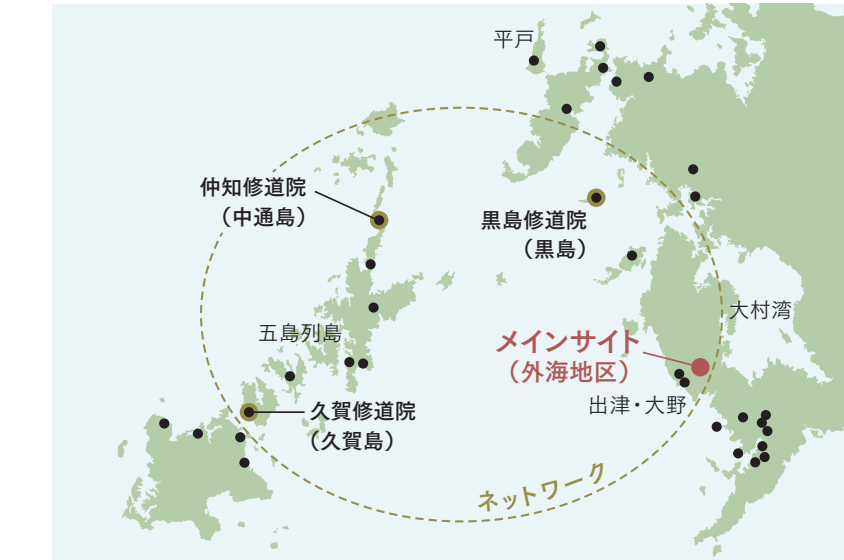


### 修道会の、暮らしをひろく。

お告げのマリア修道会のシスターたちは、各地の修道  
院で日々祈りを捧げ、保育・医療・福祉事業に取り組む  
かわら、食卓のために土を耕し、作物を育て収穫して  
います。修道会の暮らしは極めてシンプルなものです。  
多くのものを持たず、少ないものをわかちあうことの  
中に本当のゆたかさがあると考えます。そんな修道者の  
「暮らしかた」の一端に触れていただければ幸いです。



黒い葉の煎る道「日々の帳」(ド・ロ神父の紅茶づくり法)より



### 長崎の端々に息づく物語。

本プロジェクトは、長崎市の外海地区にある出津・大野  
エリアをメインの舞台としたものですが、お告げのマリア  
修道会は長崎の端々(はしはし)に点在する約30の修道  
院で構成されています。外海地区のド・ロ神父と同じ  
ように、それぞれの土地で宣教活動にあたる神父と  
土地の歴史が存在しているのです。それらの物語をわか  
ちあうために、修道院をつないだネットワークの構築  
にも取り組めます。

### プロジェクトスケジュール

	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度	2025 (令和7)年度	2026 (令和8)年度
小田平エリア	1 事務所 完成 2 工房 3 エントランス 4 ガストハウス 5 外構・畑・庭	基本・実施設計	暫定工事	調査・設計	工事
大平エリア	6 作業場建物跡 7 開墾地 8 山小屋	工事	大平オープン 9月末~10月頃		田舎工事
道・ゆかりの道・他		構想・計画	環境整備・工事		一部完成
		自己資金事業	補助事業・助成事業(予定)	地域・市連携事業(調整中)	

Cultivate, Share and Walk Together  
The Way of Father de Rotz Heritage Landscape Museum

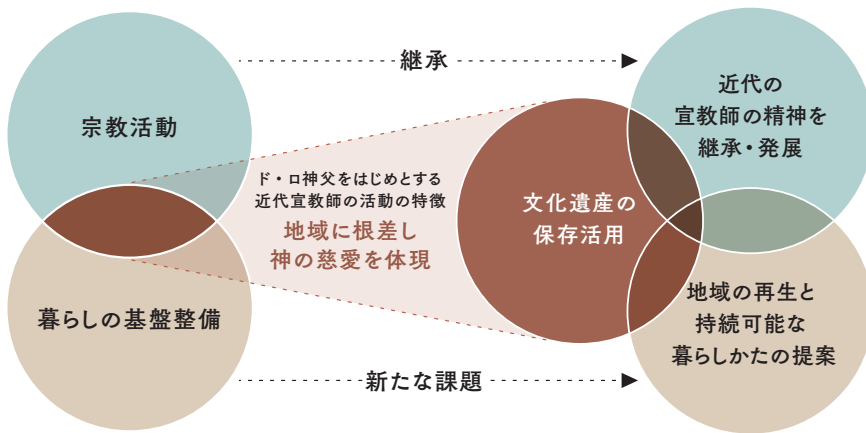
ド・ロさまと歩くミュージアム



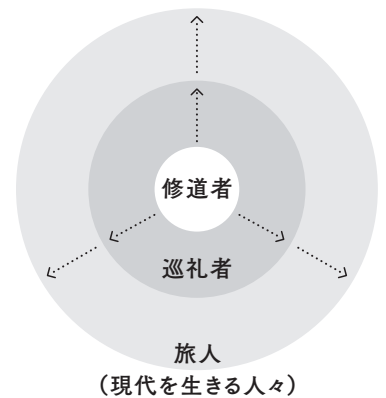
# 異国の地で神の慈愛を実践し続けた ド・ロ神父の物語をわかちあい、 未来へつなぐフィールド・ミュージアムをつくる。

これまでの価値観が大きく変化し、現代に生きる多くの人が  
ゆたかな暮らしのありかたを模索しています。  
そんななか<sup>しつ</sup>出津で継承されてきたド・ロさまの精神や生活文化、  
共同体のありかたは、これからのゆたかさを示すものになるでしょう。  
競争するのではなく、共に耕す。占有するのではなく、わかちあう。  
ないものを望むのではなく、あるものを生かす。  
大切に受け継がれてきた、修道会の営みを耕しわかちあうことで、  
これからの時代を生きる人たちの糧となることを願います。

## 次代の修道会の 新たな役割



## 修道会の「わかちあう」 暮らしかたをおすそわけ



地域の気候・風土・文化 → 地域の気候・風土・文化の再認識 / 再評価  
暮らしの土台

前近代 ..... 近代 ..... 現代 ..... 未来

## マルク・マリー・ド・ロ神父 (ド・ロさま)

1840年にフランスのノルマンディー地方ヴォスロールに  
貴族の次男として生まれる。1868年来日。印刷技師  
として長崎や横浜で宣教活動に励んだのち、外海地区  
へ赴任。母国で身につけた建築・土木・医学・産業  
などの幅広い専門知識を活かし、多彩な事業を自ら先  
導し外海の人々に「自立して生きる力」を授けた。出  
津教会・大野教会・救助院・マカロニ工場など設計し  
た建築は現在も外海の地に残る。神父は来日後、一  
度も母国へ帰ることなく、1914年に享年74歳で逝去。  
出津集落、野道の共同墓地に眠る。



左：ド・ロ神父肖像画 右：「SHITSU」風景画/長崎市ド・ロ神父記念館収蔵（修道会寄託）

# 歩いて巡る。 歩みを振り返る。

「自分たちが暮らす環境、インフラ、住まい、着るもの、食べるものはできるだけ自分たちの手で。」外海の人々にそう教え、自活の力を育んだド・ロ神父の精神は、持続可能な地域社会のあるべき姿を示しています。その精神は現代でも有効なものとなるでしょう。

このミュージアムでは、ド・ロさまと村の人々が残した大切な歴史的遺産を歩いて巡るとともに、神父の精神を受け継ぐシスターたちの暮らしの一部を体験することができます。体験を通してド・ロさまの歩みを振り返り、その精神を感じることができるフィールドミュージアムを目指しています。



## おおだいら 大平エリア

- 農 農作物 など
- 食 お茶づくり、パンづくり
- 泊 山小屋キャンプ
- 休 天体観測など
- 創 ドロさまの道や石垣の手直し
- 祈 山で祈る

## へんだけ 変岳エリア

## こだびら 小田平エリア

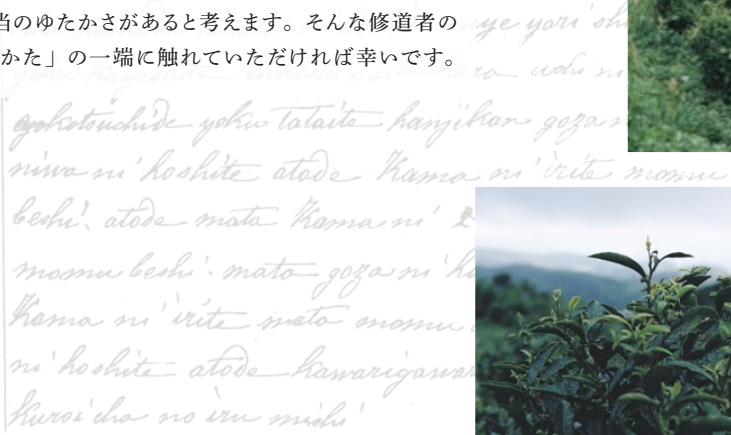
- 食 カフェ、レストラン、マルシェ
- 創 木工、料理
- 泊 宿坊体験
- 学 ガイダンス(文化的景観・ミュージアム)
- 祈 麓で祈る

## フィールド ミュージアムの 全体像

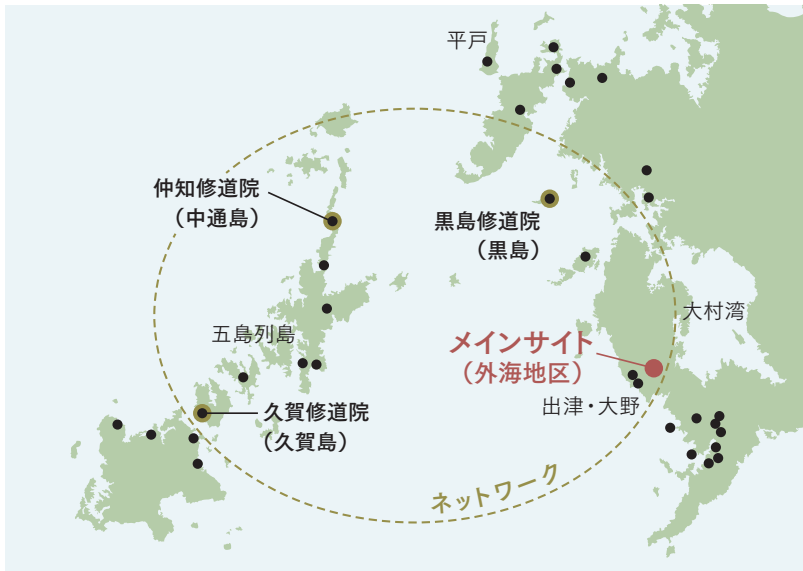
— メイン道路(車道)    ..... ド・ロさまの道(歩行者道)    🚏 バス停    P 駐車場

# 修道会の、暮らしをひらく。

お告げのマリア修道会のシスターたちは、各地の修道院で日々祈りを捧げ、保育・医療・福祉事業に取り組むかたわら、食卓のために土を耕し、作物を育て収穫しています。修道会の暮らしは極めてシンプルなもの。多くのものを持たず、少ないものをわかちあうことの中に本当のゆたかさがあると考えます。そんな修道者の「暮らしかた」の一端に触れていただければ幸いです。



黒い茶の煎る道『日々の帳』(ド・ロ神父の紅茶づくり法)より



## 長崎の端々に息づく物語。

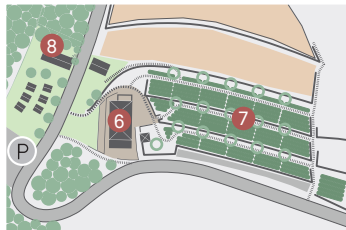
本プロジェクトは、長崎市の外海地区にある出津・大野エリアをメインの舞台としたものですが、お告げのマリア修道会は長崎の端々(はしばし)に点在する約30の修道院で構成されています。外海地区のド・ロ神父と同じように、それぞれの土地で宣教活動にあたった神父と、土地の歴史が存在しているのです。それらの物語をわかちあうために、修道院をつないだネットワークの構築にも取り組みます。

- メインサイト(出津・大野)
- 端々の拠点(予定)
- お告げのマリア修道会修道院(事業所)

## プロジェクトスケジュール



小田平エリア

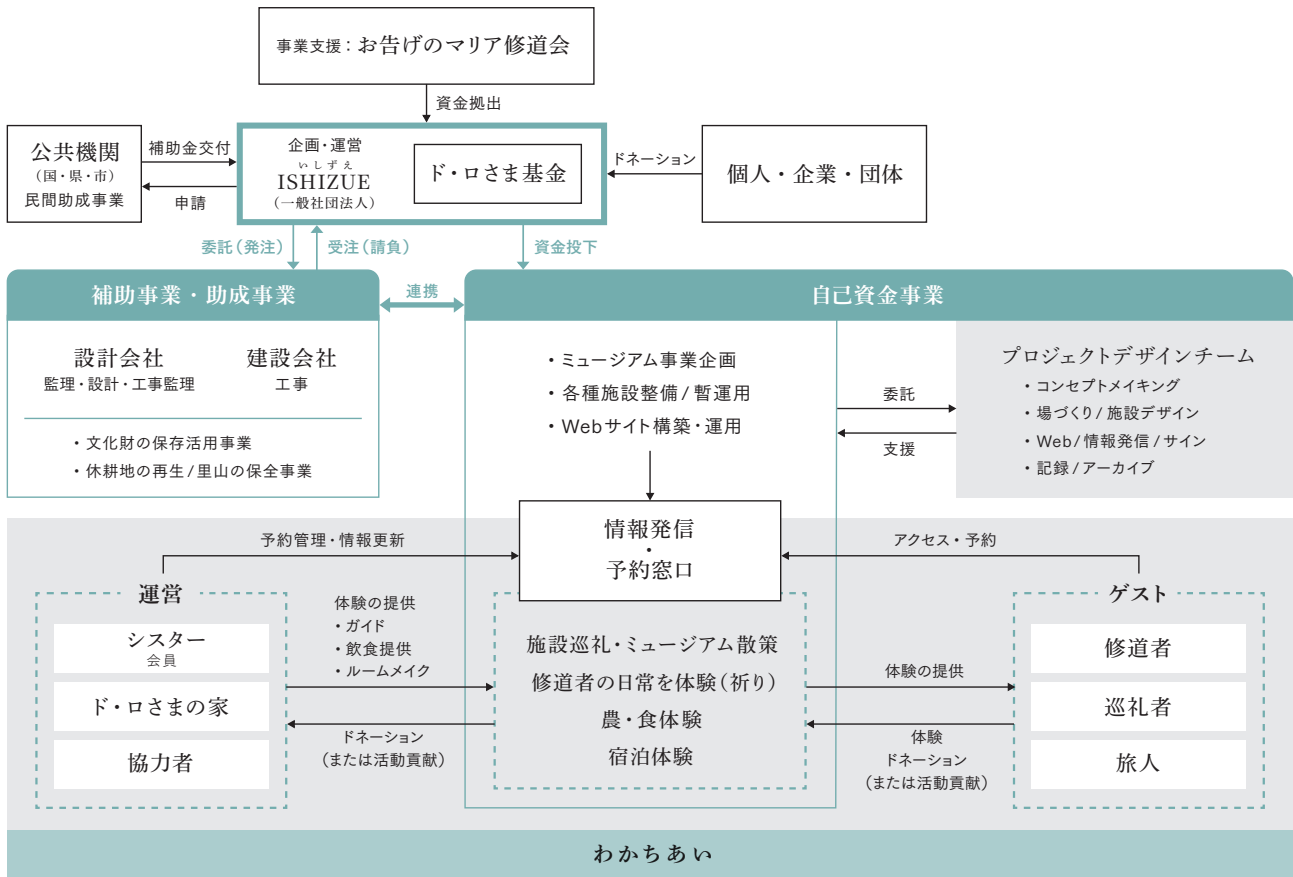


大平エリア

	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度	2025 (令和7)年度	2026 (令和8)年度	
小田平エリア	① 事務所	工事 完成			小田平オープン 夏頃	
	② 工房		基本・実施設計 > 暫定工事	完成(暫定)		
	③ エントランス			調査 > 設計 > 工事		完成
	④ ゲストハウス		基本・実施設計 >	工事		完成
	⑤ 外構・畑・庭	全体構想		基本・実施設計 >		工事 完成
大平エリア	⑥ 作業場建物跡	工事			大平オープン 9月末~10月頃	
	⑦ 開墾地	工事				
	⑧ 山小屋	設計 > I期工事	II期工事			III期工事
道・他		ド・ロ神父 ゆかりの道・井戸	構想・計画	環境整備・工事	一部完成	

■ 自己資金事業 ■ 補助事業・助成事業(予定) ■ 地域・市 連携事業(調整中)

## 事業スキーム



プロジェクトは大きく2つの事業で構成されています。ひとつは行政からの補助を受け実施する、文化財の保存活用を中心とした事業。もうひとつは、基金を含む自己資金により推進する事業です。この取り組みは地域コミュニティのありかたの実践でもあり、ゲストは寄付による金銭のやりとりだけでなく、活動による貢献で体験の提供を受けることができます。

プロジェクトの企画・運営は、お告げのマリア修道会を母体とする(一社)ISHIZUE(いしずえ)が担います。プロジェクトの推進にあたっては、シスターたちを各分野の専門家によるデザインチームがサポートしながら、来訪者を含む様々な人たちがプロジェクトに参加し、わかちあい、物語の継承者となる仕組みをつくります。



## プロジェクトを応援して下さる方へ

プロジェクトを推進していくための「ド・ロさま基金」を創設し、プロジェクトの趣旨に賛同した個人・法人・団体からのドネーションを公募いたします。詳細についてはホームページの「ド・ロさま基金」の案内をご覧ください。



<https://fr-doro.jp>

## お問合せ

一般社団法人 ISHIZUE  
ド・ロさまと歩くミュージアム プロジェクト事務局

〒851-2322 長崎市 西出津町2554

TEL 0959-31-4191

E-mail [info@fr-doro.jp](mailto:info@fr-doro.jp)

<https://fr-doro.jp>